

2008年3月29日(土)

「心のドアを開きましょう」

市民教授 小芝ルリ子

1、50才前後の心の変化

一般的に女性の場合は、丁度その頃、子供達に手もかからなくなり、さて私のしたかったことは？と忘れていた夢を思い出したりします。妻と母以外の肩書きを探す時期かもしれません。何も知らなかったハーブにめぐりあって、それからハーブ研究家になるまでの経過を語りました。

2、キーワードはオープンマインド

夫に勤めを辞めてもらい、自宅で開業した「はあぶや」が軌道に乗ると 様々なメディアにも出会いました。いろいろ経験を積む中で、やはり動くことによって出会う人との交流が大切だと思いました。

Merryさんという人物とも出会い、彼女から教えてもらった大切なことで実践したのは、オープンマインドとプラス思考、そしてまず第一歩を踏み出す、動くことでした。

3、「人生とは思い切った冒険、さもなくば無意味」 ヘレンケラー

みんな自分の畑を持っているはずで、自分で自分の畑を耕し花を咲かせる努力をしていく事が大切です。そのために思い切って踏み出してみる事なのです。

4、私の仕事は、塾経営、ハーブ研究家、講演家、絵本作家、そして次は？

自分の為に費やす時間も持つようにして 次々夢を広げていきます。さまざまな人と交流する中で、また新しい目標が定まってきました。最近はリコーダーに熱中で、楽器をやっている者が集まって自宅で音楽会をやっています。いずれ作曲もしてみたいと思います。

5、時には子供のように

もう年だからとあきらめないでほしい 思い切ってやってみて欲しいといつも話します。いくつになっても。

<小芝教授感想>

いつもの講演と違ったのが、講義であるということと聴いてくれる人がいつもと違い男性が多いという点。最初、その場の雰囲気にとまどいが、ちょっと固い感じに、少々緊張した。

今回、男性達の反応をみていると、男性の心の変化はもう少し遅くて、60才前後なのか？と。

なかなかそれも前に踏み出せない様子が見てとれて、新たなテーマを頂けたような気がする。

前の方にお座りの男性の中にお1人眼をつぶっている人がいて、ちょっと気になって、眼を開けさせようとふんばる。途中で両眼で私の方を見てくれるようになったので、ちょっとホッとした。

殆どの方が50才は過ぎているようだったが、なかほどに1人、若い男性が、彼はどう思って私の講義を聴いているのかな などと思い巡らしながら、話を進めた。

そしてその中でも私が影響を受けた女性と男性、Merry Whiteさんや 宮川秀之さんのお話をして、具体化したつもりだったが言い忘れたことも多々あって、もう少し準備をしておかなければと、

それが反省点。一番語りたかったことが、もう年だからとあきらめないでほしい 思い切って

やってみて欲しいということ。これが皆さんに伝わったか否かはわからないがもうすこし一人ひとりのご意見をうかがいたかったなとも思っている。

<けいはんな地域に住んだ理由？の質問に>

「何か新しい可能性の感じられる地域だから・・・」

<聴講生の感想>

「小芝さんの軽快な話に 物事にこだわらない人柄が出ててよかった。」

「ご主人は JR の機関士だったそうですが、何だかご主人が鉄道で、小芝さんが機関車のような」